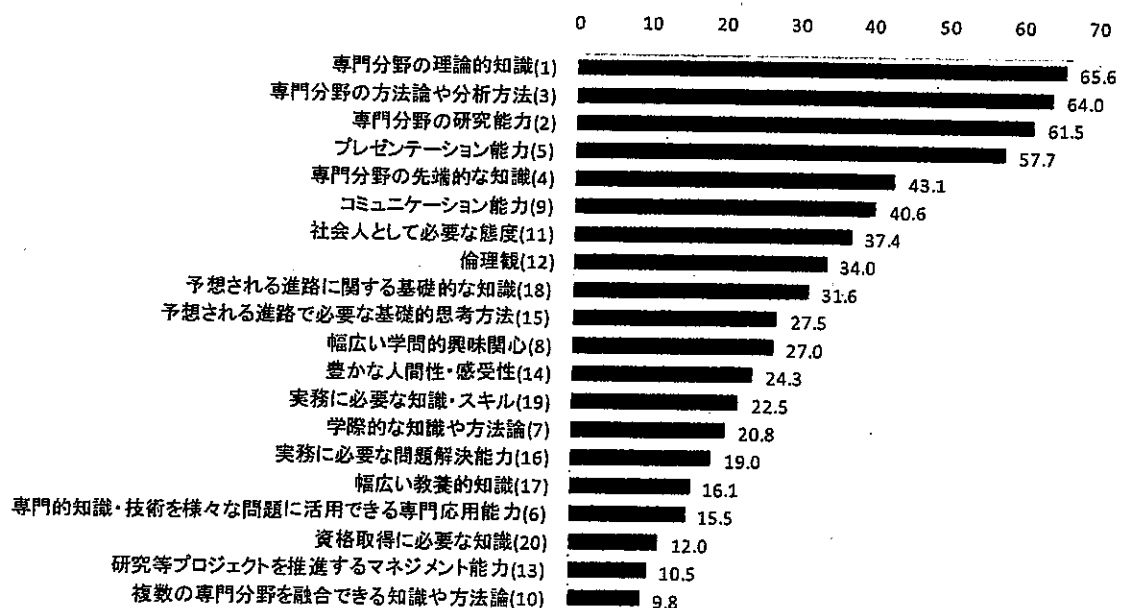


## 2.8 身につけていると思われる知識・技能・態度

博士課程（後期）修了時に学生が身につけていると思われる知識・技能・態度については、「専門分野の理論的知識」が66%、「専門分野の方法論や分析方法」が64%、「専門分野の研究能力」が62%、「プレゼンテーション能力」が58%となっており、これらの上位4項目が回答割合50%を越えていた。身につけさせたい知識・技能・態度の項目と同様に、身につけていると思われる知識・技能・態度についても専門能力に関連する項目が上位にあがっている。

以下には、「専門分野の先端的な知識」の43%、「コミュニケーション能力」の41%、「社会人としての必要な態度」の37%、「倫理観」の34%、「予想される進路に関する基礎的な知識」の32%などが続いている。専門的能力に加えて、社会人として必要な一般的な能力や知識なども身につけていることが予想されている。「学際的な知識や方法論」、「専門的知識・技術を様々な問題に活用できる専門応用能力」、「研究等プロジェクトを推進するマネジメント能力」、「複数の専門分野を融合でできる知識や方法論」については、教員が学生に身につけさせたいと考えているものの、博士課程（後期）修了時に身につけていると見込みにくい項目である。

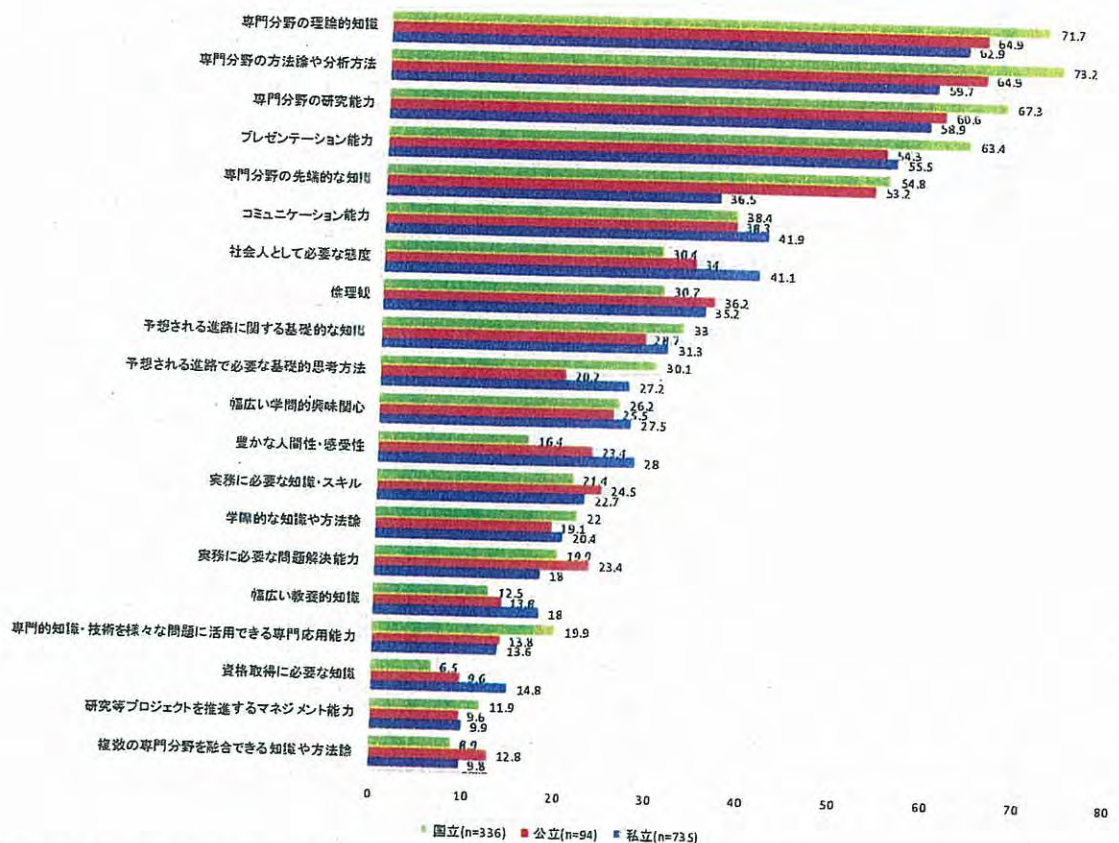


図Ⅲ-15 博士課程（後期）修了時に学生が身につけていると思われる知識・技能・態度  
(n=1165)

※括弧内は、博士課程で身につけたい知識・技能・態度の順位

大学の設置区別に身につけていると思われる知識・技能・態度をみると、国立大学では「専門分野の理論的知識」、「専門分野の研究能力」、「プレゼンテーション能力」、「専門的知識・技術を様々な問題に活用できる専門応用能力」の回答割合がそれぞれ他の区分に

比べて高くなっている。また、公立大学では「専門分野の先端的な知識」の回答割合が他の区分に比べて高くなっている。私立大学では「社会人として必要な態度」、「豊かな人間性・感受性」、「資格取得に必要な知識」の回答割合がそれぞれ他の区分と比較して高くなっており、逆に「専門分野の方法論や分析方法」については他の区分より低い回答割合となっている。



図Ⅲ-16 大学の設置区分別修了時に学生が身に付けていると思われる知識・技能・態度(%)

大学院の所在地別に身に付けていると思われる知識・技能・態度をみると、東京都では「幅広い学問的興味関心」および「幅広い教養的知識」の回答割合が他の地域に比べて高くなっている。また、東京都以外の関東地方で「予想される進路に関する基礎的な知識」の回答割合が他の区分に比べて低くなっている。

専攻分野別では、工学系において「コミュニケーション能力」、「実務に必要な知識・スキル」の回答割合が他の分野に比べて高くなっている。

表Ⅲ-8 大学院の所在地別修了時に学生が身に付けていると思われる知識・技能・態度(%)

	専門分野の理論的知識	専門分野の方法論や分析方法	専門分野の研究能力	プレゼンテーション能力	専門分野の先端的な知識	コミュニケーション能力	社会人として必要な態度	倫理観	予想される進路に関する基礎的な知識	予想される進路で必要な基礎的思考方法	幅広い学問的興味関心	豊かな人間性・感受性	実務に必要な知識・スキル	学際的な知識や方法論	実務に必要な問題解決能力	幅広い教養的知識	専門的知識技術を様々な問題に活用できる専門応用能力	資格取得に必要な知識	研究等プロジェクトを推進するマネジメント能力	複数の専門分野を融合できる知識や方法論
北海道(n=45)	75.6	71.1	66.7	71.1	58.3	40.0	31.1	33.3	22.2	24.4	33.3	20.0	28.9	26.7	20.0	13.3	13.3	6.7	11.1	15.6
東北地方(n=51)	66.7	68.6	66.7	66.7	47.1	41.2	33.3	33.3	29.4	23.5	17.6	19.6	33.3	13.7	33.3	18.7	11.8	13.7	7.8	6.9
東京都(n=243)	66.3	63.4	65.0	66.0	40.3	41.2	39.5	36.2	36.2	32.1	33.7	28.4	20.6	19.3	16.9	21.8	15.6	11.9	10.7	9.1
東京都以外の関東地方 (n=166)	60.8	57.2	60.2	57.2	41.0	38.6	36.1	31.3	23.5	22.3	27.7	22.9	20.5	22.3	15.7	17.5	13.9	10.2	12.7	13.9
中部地方(n=141)	61.7	61.7	59.6	58.9	47.5	36.9	44.0	39.7	36.2	28.4	24.1	27.0	24.8	18.4	22.7	11.3	16.3	12.8	11.3	7.8
近畿地方(n=289)	66.4	66.4	59.5	53.3	43.9	40.8	33.2	34.3	30.1	26.3	22.8	22.8	19.7	23.6	17.3	17.0	16.3	12.8	10.4	10.7
中国地方(n=81)	64.2	69.1	61.7	60.5	38.3	36.3	29.6	19.8	28.4	24.7	28.4	17.3	21.0	18.5	19.8	9.9	19.8	9.9	6.2	8.6
四国地方(n=23)	78.3	69.6	60.9	65.2	34.8	38.1	39.1	21.7	47.8	39.1	17.4	30.4	39.1	13.0	26.1	26.1	13.0	17.4	13.0	-
九州・沖縄地方(n=121)	63.6	62.0	57.9	58.7	43.8	47.1	46.5	38.0	36.4	28.9	28.1	24.8	24.8	20.7	19.0	10.7	14.9	12.4	9.1	8.3

## 2.9 身に付けさせたいことと身に付けていると思われること

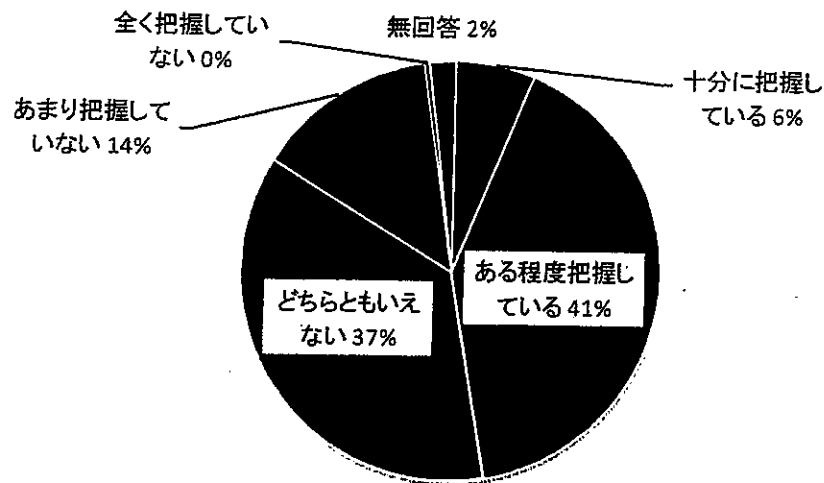
博士課程（後期）での教育研究を通じて身に付けさせたい知識・技能・態度と修了時に学生が身に付けていると思われる知識・技能・態度をそれぞれ比較すると、その差分（身に付けさせたいこと－身に付けていると思われること）が最も大きいのは、「専門的知識・技術を様々な問題に活用できる専門応用能力」で42.8ポイントの差があった。また、「学際的な知識や方法論」では34.9ポイント、「複数の専門分野を融合できる知識や方法論」では33.8ポイント、「研究等プロジェクトを推進するマネジメント能力」では30.2ポイントの差がある。大学院の教員にとって、応用的な能力、幅広い知識などは、博士課程（後期）の課程中に身に付けさせることが難しいと考えられている様子がうかがえる。

表Ⅲ-9 身に付けさせたいことと身に付けていると思われること(%)

	(1)身に付けさせたいこと	(2)身に付けていると思われること	差分
専門的知識・技術を様々な問題に活用できる専門応用能力	57.3	15.5	41.8
学際的な知識や方法論	55.7	20.8	34.9
複数の専門分野を融合できる知識や方法論	43.6	9.8	33.8
研究等プロジェクトを推進するマネジメント能力	40.7	10.5	30.2
専門分野の先端的な知識	71.9	43.1	28.8
幅広い学問的興味関心	53.8	27.0	26.8
専門分野の研究能力	83.6	61.5	22.1
専門分野の理論的知識	85.1	65.6	19.5
専門分野の方法論や分析方法	83.2	64.0	19.2
豊かな人間性・感受性	38.9	24.3	14.6
幅広い教養的知識	30.2	16.1	14.1
実務に必要な問題解決能力	31.8	19.0	12.8
コミュニケーション能力	52.4	40.6	11.8
プレゼンテーション能力	69.4	57.7	11.7
倫理観	41.1	34.0	7.1
予想される進路に必要な基礎的思考方法	33.4	27.5	5.9
社会人として必要な態度	42.7	37.4	5.3
実務に必要な知識・スキル	25.1	22.5	2.6
予想される進路に関する基礎的な知識	30.0	31.6	-1.6
資格取得に必要な知識	10.2	12.0	-1.8

### 30 社会が博士課程修了者に求める人材ニーズの把握

社会が大学院博士課程修了者に求める人材ニーズについては、把握している（「十分に」＋「ある程度」）とする回答が47%と半数近くを占める。しかし「どちらともいえない」が37%、「あまり把握していない」が14%となっており、全体的には人材ニーズの把握は十分とはいえない状況にある。



図Ⅲ-17 社会が博士課程修了者に求める人材ニーズの把握(n=1165)

把握している（「十分に」＋「ある程度」）と回答した人に、社会ニーズを把握する方法について具体的に尋ねたところ、

- ・企業等の担当者との面談、意見交換による
- ・企業等に対する独自のアンケート調査による
- ・企業の共同研究などの現場を通じて

などの回答が多くみられた。また、社会ニーズに関する情報源としては、

- ・政府の審議会情報
- ・経団連等のレポート
- ・新聞や雑誌などの情報

などがあげられた。

一方、把握していない（「あまり」＋「全く」）と回答した人にその理由を尋ねたところ、

- ・研究者養成が目的であるので
- ・在籍者のほとんどが研究者を目指しているので

などの理由があげられた。また、

- ・人材ニーズに関する情報が不足している
- ・社会一般には博士号が理解されていないためニーズそのものがない